

# 町づくりは人づくり，人づくりは教育にあり（準備中） 学校・家庭・地域が連携して亘理の未来を育てよう！

市町村名		推進組織名			関係学校名						
亘理町		—			—						
		設立年度	教育委員会・担当課		関係学校学級数	児童生徒数					
		H32(予定)	亘理町教育委員会・生涯学習課		—	—					
統括的な地域学校協働活動推進員数	統括的なコーディネーター数	地域学校協働活動推進員数	コーディネーター数	地域連携担当数	登録ボランティア数						
4人	4人(予定)	31人(予定)	5人	10人	104人						
活動目標	—										
【連絡先】	所在地			電話番号	FAX番号						
	〒989-2351 亘理郡亘理町字旧館61-22			0223-34-0510	0223-34-3112						
協力企業・団体・大学・NPO等			E-mail	syogai@town.watari.lg.jp							
亘理町中央公民館,各地区交流センター(3施設),各地区まちづくり協議会(5地区)			URL	www.town.watari.jp							
〇〇市町村の概要											
人口	33,662人	割合	65歳以上	30.2%	面積	73.60km <sup>2</sup>	学校数	幼・保・こ	1園	産業等	農業，水産業，製造業，建設業，加工業，小売業，観光
			15～64歳	58.0%				小学校	6校		
			0～14歳	11.8%				中学校	4校		

## これまでの経過

- ・平成30年7月から，年3回，「地域連携担当者会」を実施。町内10校の地域連携担当者との意見交換や情報共有の場を設置。
- ・平成30年10月から，町としての「地域学校協働活動運営委員会」及び「地域学校協働本部」の基本理念について，関係団体と意見交換を実施。
- ・町を4つの地区に分け，各地区の実情に応じた「地域学校協働本部」の組織づくりを計画。
- ・平成30年度中に「地域学校協働本部」の設置要綱，実施要項，「地域学校協働活動推進員設置要綱」等の規約を制定予定。
- ・町内の逢隈地区をモデル地区とし，既存の「逢隈学区懇談会」の組織を活用し，平成31年度中に協働本部の試験運用を開始予定。その後，平成32年度からは町内すべての地区にて運用開始予定。
- ・震災後，平成27年4月より順次，町内各小学校において放課後子ども教室を再校。平成31年度中に5校実施。コーディネーターを各校1名ずつ配置。

## 地域学校協働活動

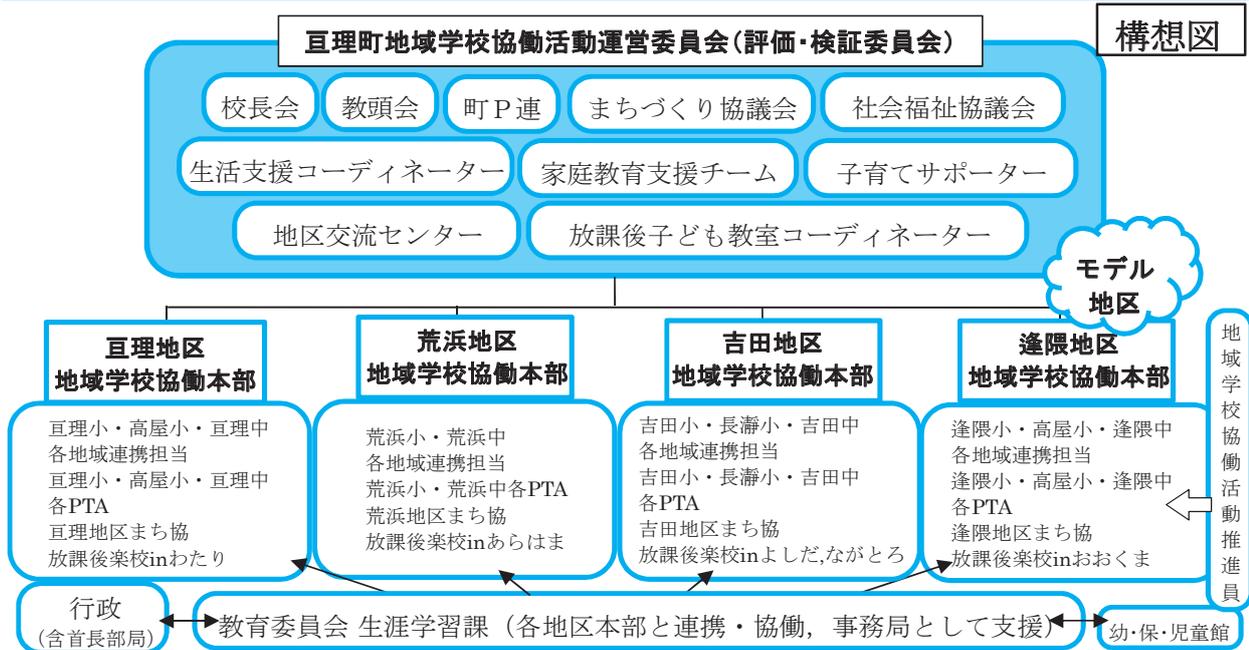
●学校支援活動	●家庭教育支援活動	●地域活動	●放課後子ども教室
「子どもをまもり隊」(登下校の安全見守り)，文化財巡り，海洋スポーツ体験，人権教育支援(盲導犬，車椅子バス)，文化芸術支援(巡回小劇場等)，キャリア教育，思春期保健体験事業，その他	亘理町子育てサポーター養成講座，子育てサロン，家庭教育講座「三歳児の世界」，家庭教育ワンポイントアドバイス，親の学び支援セミナー，親育ち応援講座「親の学びのプログラム」，その他	インリーダー研修会，ジュニア・リーダー初級研修，亘理町ボランティアサークル「たんぼぼ」支援，サイエンスフェスティバルin亘理町，わたり未来づくり発表会，その他	放課後楽校inよしだ 31人 放課後楽校inおおくま 61人 放課後楽校inわたり 34人 放課後楽校inながとろ 34人 (各校にて，体験活動，伝承遊び，読み聞かせ，季節行事，制作，スポーツ等)

## 工夫している点

- ・各校の地域連携担当者や放課後子ども教室のコーディネーター，家庭教育支援チームや子育てサポーターとの情報交換を積極的に行い，各団体との連携を緊密に図っている。
- ・より実効性のある協働本部の設置に向けて，各地区の実情や各団体からの意向を十分に把握したり，研修会や情報共有の場を設定したりしながら事業を進めるように心掛けている。

## 行政の支援や取組

- ・ 亘理町地域学校協働活動運営委員会及び各地区地域学校協働本部設立に向けての準備  
地域学校協働活動の評価・検証を実施する運営委員会の新設準備  
町内4地区の実情や既存組織を活用した地域学校協働本部設立に向けての規約制定
- ・ 各校で実施している学校支援活動の把握や支援，各団体のニーズの把握と支援  
すでに各校と地域住民とが協働して実施している学校支援活動の把握，情報発信，支援の実施  
各団体との連絡・調整の強化，情報発信，支援の実施



特色ある活動事例

【学校支援活動】

「思春期保健体験事業」

～明日の親となる中学生を対象とした子育て理解講座～

- ・町内すべての中学3年生を対象とした3回シリーズの講座。
- ・子ども未来課、町内各保育所・幼稚園・児童館、各中学校と連携・協働して実施。
- ・1回目は、子どもの発育と特徴を学び、子育てサポーターの指導を受けながら、子どもたちとの遊び方を体験。
- ・2回目は、学区内の幼稚園や保育所等へクラスごとに訪問し、生徒自身が考えた遊びや読み聞かせを幼児に提供。
- ・3回目は、助産師の話聞きながら、生命誕生の尊さや親になるための心構えについて学ぶ。

【放課後子ども教室】

- ・町内の小学校、交流センター、まちづくり協議会等と連携し、放課後の児童の安心・安全な居場所づくりを展開。
- ・ボランティアとして参加している住民が実施内容を毎回立案し、児童が意欲的に参加できるプログラムを主体的に実施。
- ・各校1人ずつ配置するコーディネーターとの会議や、連絡協議会を通じ、児童と住民の双方が満足できるように支援する。



思春期保健体験事業(学校支援活動)



放課後楽校(放課後子ども教室)

活動の成果

- ・学校支援活動で取り組んだ各事業において、約9割の児童生徒の学習意欲が高まり、それぞれの活動を通じた学びに対して十分な満足感を得ている。
- ・家庭教育支援活動では、町内すべての幼稚園や保育所で「親の学びのプログラム」に基づく講座を実施し、参加者の9割以上が学びや参加者同士の交流に対して肯定的に受け止めている。
- ・平成29年度に実施した放課後子ども教室のアンケートから、ボランティアスタッフ(地域住民)・参加児童・保護者のいずれも約9割から、「参加して良かった」という肯定的な回答が得られた。学校・家庭・地域の連携・協働を進める上で大きな成果をあげている。

今後の活動に向けて

- ・地域学校協働活動推進員候補者との意見交換を更に深め、各地区の実情や各校での実践に基づいた協働本部を設立すると共に、各地区の事務局としてそれぞれの事業展開を十分に支援する。特に家庭や地域住民にとって、「地域学校協働活動」とは何かといった認知が十分ではない現状を踏まえ、当該事業に関する研修会や推進員同士の顔合わせ、情報共有の場等を設定し、理解を深める。
- ・すでに各校で協働教育の活動が十分実践されている現状を踏まえ、学校と家庭・地域との絆を確保しつつ、新たな課題や要望を適宜収集し、適切な支援ができるように、社会教育主事が中心となって学校・家庭・地域・行政・その他、各種団体との連携を強める働き掛けを継続的に実施する。

# 地域と学校が一体となって山元の子供を育てるネットワーク

市町村名		推進組織名			関係学校名						
山元町		山元町地域学校協働本部			坂元小学校, 山下小学校, 山下第一小学校 山下第二小学校, 坂元中学校, 山下小学校						
		設立年度	教育委員会・担当課		関係学校学級数	児童生徒数					
		H30	山元町教育委員会生涯学習課		44学級	728人					
統括的な地域学校協働活動推進員数		統括的なコーディネーター数	地域学校協働活動推進員数	コーディネーター数	地域連携担当数	登録ボランティア数					
0人		1人	0人	2人	6人	67人					
活動目標	地域と学校が連携・協働した教育活動を行い、地域が一体となって子供を育み、教育活動の充実を図る。										
【連絡先】	所在地			電話番号		FAX番号					
	〒989-2203 亶理郡山元町浅生原字日向12-1			0223-37-5116		0223-37-0119					
協力企業・団体・大学・NPO等				E-mail	shougaigakusyuu.s@town.miyagi-yamamoto.lg.jp						
家庭教育支援チーム「つばめ」 食生活改善推進員 文化協会 スポーツ推進委員 山元町社会福祉協議会ほか, 計40団体				URL	http://www.town.yamamoto.miyagi.jp/						
山元町の概要											
人口	12,415人	割合	65歳以上	38.5%	面積	64.58km <sup>2</sup>	学校数	幼・保・こ	5園	産業等	農業, 漁業, 製造業, 建設業, 観光
			15~64歳	52.3%				小学校	4校		
			0~14歳	9.1%				中学校	2校		

## これまでの経過

- 平成24年4月より協働教育コーディネーターを配置し、学校と地域がより密接に連携しての協働教育推進に取り組む。
- 町内の4小学校, 2中学校, 必要に応じて幼稚園, 保育所等と連携・協力し, 学校支援活動や学校とともに地域活動等へ参画している。
- 平成30年4月1日に山元町地域学校協働本部設置要綱, 山元町地域学校協働活動コーディネーター設置要綱を施行し, 山元町地域学校協働本部を設立した。
- 統括コーディネーター1名, 地域コーディネーター2名(山下地区担当1名, 坂元地区担当1名)を配置する。

## 地域学校協働活動

●学校支援活動	●家庭教育支援活動	●地域活動	●放課後子ども教室
安全見守り, 学習支援活動, 地域理解, 読み聞かせ, 学校行事支援, 環境整備, 防災・減災活動, 職場体験・キャリア教育, 農業体験, 世代間交流, 食育, 地域伝統芸能, 楽器指導, 合唱指導, その他	家庭教育学級・幼児学級, 家庭教育支援チームによる講座運営・研修会・託児支援・「親の学びのプログラム」・子育て通信発行, 家庭教育支援講座, 育児サークルでの交流, その他	世代間交流(子どもも大人もみんなで遊び隊 ロビーミニコンサートほか), 防災キャンプ, インリーダー研修会, ジュニアリーダー初級研修会, 地域教育資源活性化(やまもと楽校), その他	みやまっこクラブ23人(各種体験活動, 自由遊び等) はまっこキッズ20人(各種体験活動, 自由遊び等)

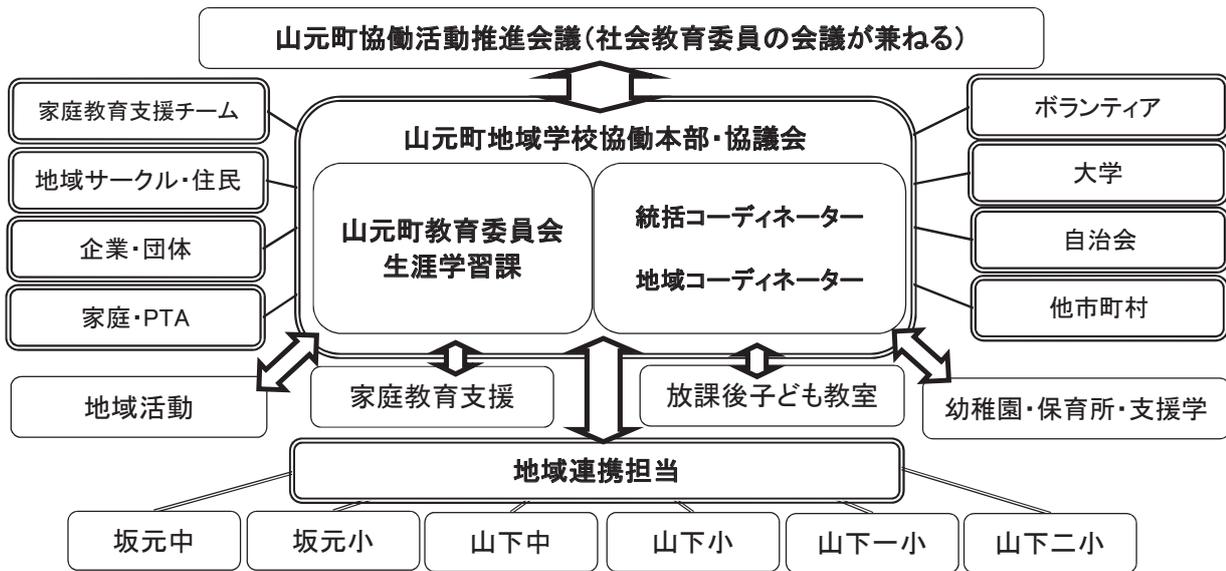
## 工夫している点

- 学校支援ボランティア登録者(H31年1月現在67名)との連絡が途絶えないよう, 年度末に学校支援活動報告会を開催し相互交流するようにしている。
- 学校の地域連携担当教員との連絡を密にし, 必要な人材や活動について情報共有している。
- 地域学校協働本部協議会(打合せ)を密に開催し, 本部構成員と行政担当間での情報共有を行っている。

## 行政の支援や取組

- 山元町地域学校協働活動推進会議(社会教育委員会が兼ねる)の指導・支援  
山元町地域学校協働本部の機能(学校支援活動 家庭教育支援 地域活動 放課後子ども教室)の指導・支援
- 地域学校協働本部構成員の委嘱と社会教育主事の助言  
統括コーディネーターと地域コーディネーターを委嘱し, 連携しながら協働本部の企画・運営に当たるとともに, 協働本部協議会を開催し社会教育主事が助言できる体制を整える。

山元町地域学校協働本部 地域と学校が一体となって山元の子供を育てるネットワーク



特色ある活動事例

①家庭教育学級・幼児学級

町内小学校へ次年度就学予定幼児とその保護者が参加する、年に3回の学級である。家庭教育学級では、就学へ向けた準備と保護者間の関係づくりを目的として、幼児学級では、幼児が学校に慣れることと友達づくりを目的として開催している。昭和30年代から続いており、50年以上もの歴史のある事業である。この事業により、保護者にとっての就学への不安解消、幼児にとっての環境の変化への対応のしやすさなどにつながっている。



「親のみちしるべ」を開催した家庭教育学

②継続した人材育成のシステムづくり

本町では、育児サークル「なかよし会」、家庭教育支援チーム「つばめ」、放課後子ども教室、地域学校協働本部がある。幼稚園就園前の乳幼児のいる保護者が「なかよし会」に入会し地域の方同士の関係づくりが始まる。退会と同時に家庭教育支援チーム「つばめ」に入り子育てサポーターを目指す方が毎年数名いる。さらに、放課後子ども教室学習活動サポーターを兼務し活躍している方もいる。それぞれの活動を重ね、放課後子ども教室コーディネーターや地域学校協働本部のメンバーに入るといった流れが築かれている。このように、地域学校協働活動に自然な形で関わりながら継続した人材育成システムができ上がってきている。



「なかよし会」の水族館遠足

活動の成果

- ・平成29年度には、学校支援活動に関わる方が65名(前年度58名)となり増加傾向にある。地域の方々の協力のもと、学校だけで実施することが困難な実践的かつ専門的な内容を児童生徒が体験することができ、児童生徒の学習意欲の向上につながった。
- ・地域活動関連事業、家庭教育支援講座、家庭教育学級、放課後子ども教室への肯定的な意見がいずれも90%を越えている(事後アンケートより)ことから、地域コミュニティの再生、地域への愛着醸成、安全と安心のある居場所づくりが進んでいると言える。

今後の活動に向けて

- ・学校支援ボランティアの高齢化が進み、活動の内容や時間が制限されることがある。今後は、広く地域と関わりながら地域学校協働本部の活動を計画的かつ意図的に進めることで、新たな人材と出会うように取り組む必要がある。
- ・いつでも本部活動をできる場所づくり、地域学校協働活動推進員としての人材探し、地域連携担当教員との話し合いの機会づくりを進めることで、地域学校協働活動のさらなる推進を目指したい。

## これから着手する予定

市町村名		推進組織名			関係学校名						
松島町		—			—						
		設立年度	教育委員会・担当課		関係学校学級数	児童生徒数					
		—	教育課・生涯学習班		—	—					
統括的な地域学校協働活動推進員数	統括的なコーディネーター数	地域学校協働活動推進員数	コーディネーター数	地域連携担当数	登録ボランティア数						
0人	0人	0人	1人	4人	38人						
活動目標	—										
【連絡先】	所在地			電話番号	FAX番号						
	〒981-0215 宮城郡松島町高城字帰命院下一 19番地の1			022-354-5714	022-354-3140						
協力企業・団体・大学・NPO等			E-mail	kyouiku@town.matsushima.miyagi.jp							
宮城中央森林組合, 松島観光協会, 消防署, 消防団, 婦人防火クラブ連合会, 瑞巖寺, 円通院, 地域住民			URL	http://matsushima.ed.jp/							
松島町の概要											
人口	14,172人	割合	65歳以上	35.3%	面積	53.56km <sup>2</sup>	学校数	幼・保・こ	7園	産業等	農業, 林業, 漁業, 商業, 工業, 観光業
			15~64歳	55.2%				小学校	3校		
			0~14歳	9.5%				中学校	1校		

### これまでの経過

#### 【松島まるごと学（歴史文化教育）】

- 平成25年度に歴史文化教育カリキュラム作成委員会を設置。
- 平成26年度にカリキュラムを作成し、町内小中学校の年間指導計画へ位置付け。
- 平成27年度よりカリキュラムに基づいた歴史文化教育を実践・推進。「松島まるごと学」推進委員会の設置。

#### 【その他】

- 平成26年度に地域コーディネーターを設置。
- 平成26年度より防災キャンプを開始。
- 平成30年5月より放課後子ども教室を開始。

### 地域学校協働活動

●学校支援活動	●家庭教育支援活動	●地域活動	●放課後子ども教室
登下校の安全見守り, 読み聞かせ, 学習支援活動, 学校行事支援, 環境整備, 職場体験・キャリア教育, 部活動指導他	—	防災キャンプ	松島第一小学校 31名 松島第二小学校 29名 松島第五小学校 30名 (各校年間11回開催。自由遊び, 三校合同イベント)

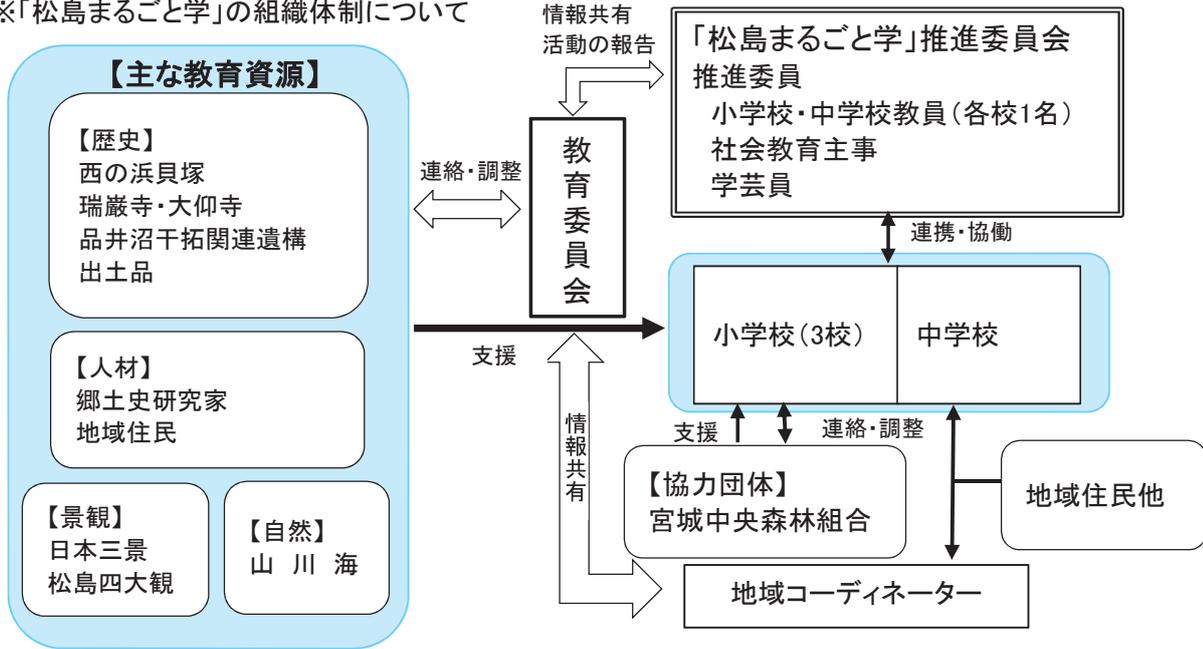
### 工夫している点

- 町内各小中学校の年間指導計画に「松島まるごと学」（歴史文化教育）を位置付け、松島を誇りに思う児童生徒の育成を図っている。
- 地域コーディネーターの人脈を活用し、学校からの要望に合った人材確保と派遣に努めている。

### 行政の支援や取組

- 「松島まるごと学」の推進・推進委員会の開催  
各学校の推進委員と連絡・調整を図りながら、カリキュラムに基づいて歴史文化教育を実践している。また、推進委員会では、年4回の会議を設けて実践の振り返りと改善を図っている。
- コーディネーターと社会教育主事との打合せの実施  
学校支援活動や「松島まるごと学」の推進、放課後子ども教室運営について打合せを行い、情報共有に努めている。

※「松島まると学」の組織体制について



特色ある活動事例

「松島まると学」

(1) 松島の縄文時代

6年生は、町内の歴史や文化・史跡について年間を通して学習している。上の写真は、4月に実施する出前授業において、国指定史跡「西の浜貝塚」の出土品を観察する様子である。出前授業では、前半に当町学芸員から「松島の縄文時代」についての講話、後半に出土品の観察を行っている。土器の重さや手触りなど縄文時代の生活をより身近に感じることのできる貴重な学習となっている。その他、国宝「瑞巖寺」の出前授業・見学学習や四大観の一つ富山「大仰寺」での座禅体験等も行っている。



史跡の出土品を観察する児童

(2) 森林学習

5年生は、町の自然と林業について年間を通して学習している。1学期に児童は町内の山に入り、宮城中央森林組合・宮城殖林株式会社との協力のもと、美林観察やチェーンソー体験を行う。また、健康な山作りのための木の管理法について話を聞き、間伐の様子を間近に見て理解を深めている。3学期は、木工教室として宮城中央森林組合の方から電動ドリルの使い方や板の間隔の取り方等を教えてもらい、学校で使う用具類を製作している。



森林学習でのチェーンソー体験

活動の成果

- ・「松島まると学」の学習終了後に実施している児童アンケートの結果では、「松島をPRしたい」と8割以上が回答しており、普段見過ごしていた地域の良さを再発見する機会となっている。教員からは、児童が地域のすばらしさに気付ける内容であるとともに、歴史・文化に対する興味関心を高めるきっかけとなる学習であるため、今後も事業継続を望む声が多い。

今後の活動に向けて

- ・「松島まると学」を中心に、各学校の推進員と連絡・調整を円滑に図りながら学校支援活動を継続し、地域を誇りに思う児童生徒を育てていきたい。
- ・ボランティア等の人材確保に努めるとともに、地域学校協働本部の体制についても検討しながら、地域全体で子供たちの成長を支える仕組み作りを進めていきたい。

# 七ヶ浜・グローバルPROJECT 「地域学校協働活動」 ～世界を見据えて、地域に根差す～

市町村名		推進組織名			関係学校名						
七ヶ浜町		七ヶ浜町地域学校協働本部			亦楽小学校, 松ヶ浜小学校, 汐見小学校 七ヶ浜中学校, 向洋中学校						
		設立年度	教育委員会・担当課		関係学校学級数	児童生徒数					
		H30	七ヶ浜町教育委員会生涯学習課		67学級	1,461人					
統括的な地域学校協働活動推進員数	統括的なコーディネーター数	地域学校協働活動推進員数	コーディネーター数	地域連携担当数	登録ボランティア数						
0人	0人	5人	2人	5人	138人						
活動目標	地域と学校が協働した取り組みを展開することで、地域の教育力の活性化と七ヶ浜町らしい地域ぐるみの特色ある教育を推進し、未来を担う子供たちの成長を地域全体で支える環境づくりを図る。										
【連絡先】	所在地			電話番号		FAX番号					
	〒985-0802 宮城郡七ヶ浜町吉田浜字野山5-9			022-357-3302		022-357-2615					
協力企業・団体・大学・NPO等			E-mail		cyukou@shichigahama.com						
農事組合法人ファーム七ヶ浜, 漁業協同組合, 町家庭教育支援チーム, 社団法人宮城外洋帆走協会ほか, 計10団体			URL		http://www.shichigahama.com						
七ヶ浜町の概要											
人口	19,196人	割合	65歳以上	27.6%	面積	13.19km <sup>2</sup>	学校数	幼・保・こ	5園	産業等	水産業, 農業, 観光
			15～64歳	60.8%				小学校	3校		
			0～14歳	11.7%				中学校	2校		

## これまでの経過

- ・平成17年から総合型地域スポーツクラブ（NPO法人アクアゆめクラブ）が放課後子ども教室を開始。
- ・平成21年9月から学校支援地域本部を立ち上げて事業を開始。町内の向洋中学校区の2小学校、中学校の活動を支援することから始まる。支援内容は、果樹植栽、米作り体験、畑作り、着衣泳指導、郷土料理指導、ニュースポーツ指導など、多岐にわたっている。
- ・平成23年より町内全小中学校に拡大して事業を実施。支援内容も少しずつ増えてきている。
- ・平成30年4月に地域学校協働本部として設立。各校の地域連携担当教諭を推進員に任命し、事業の推進、充実を図っている。

## 地域学校協働活動

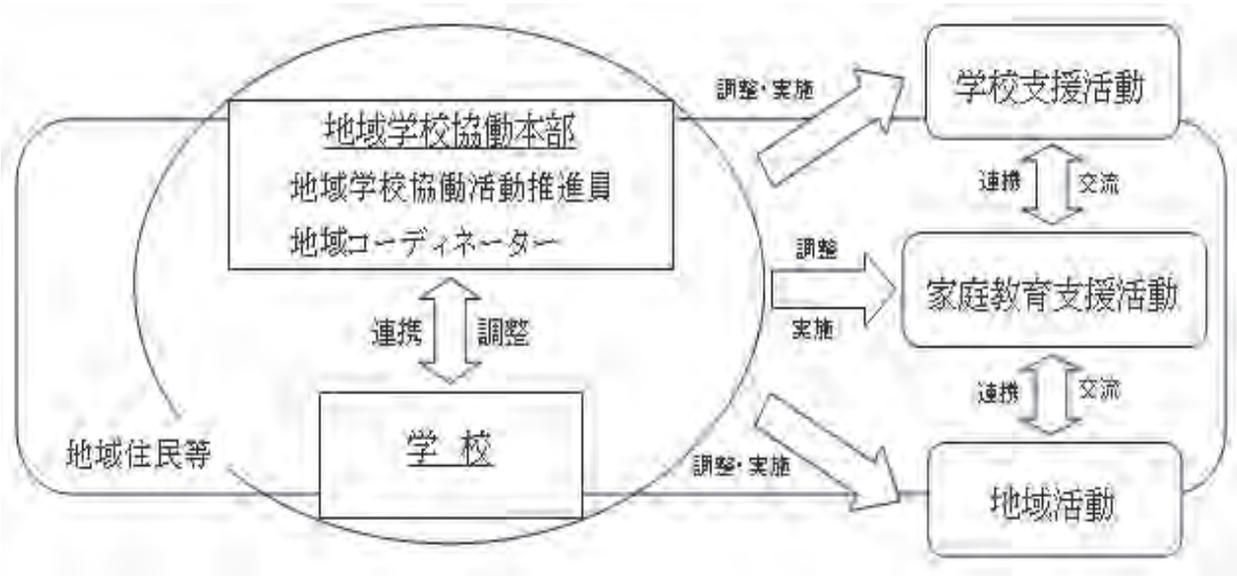
●学校支援活動	●家庭教育支援活動	●地域活動	●放課後子ども教室
登下校や校外学習時の安全見守り, 読み聞かせ, 田植え・稲刈り体験, 調理実習・裁縫授業補助, 畑の見学, 防災学習, 書きぞめ授業補助, 戦争体験講話, 海苔工場の見学, 柔道授業補助, その他	おはなし会, 家庭教育支援チームによる託児支援, 家庭教育セミナー「親の学びのプログラム」の開催, その他	合宿通学, 親子ふれあい塾, アドベンチャースクール, 海のつどい, インリーダー研修会, その他	NPO法人アクアゆめクラブが3小学校で週1回実施。連携した取組もある。 ※平成17・18年は補助事業を受けて、平成19年からは自主事業で実施。

## 工夫している点

- ・各校の地域連携担当教諭を地域学校協働活動推進員に任命し、学校や学年の要望等を取りまとめるなど、窓口となって推進を図っている。また、地域学校協働本部会議を年3回実施し、地域コーディネーターや各校の取組状況等を情報交換することで、推進を図っている。
- ・ボランティアの募集は、町のHPや広報、区長会議等を活用して人材確保に努めている。

## 行政の支援や取組

- ・七ヶ浜町地域学校協働本部の指導・支援  
地域学校協働活動推進員・地域コーディネーターを任命・委嘱し、七ヶ浜町地域学校協働本部の機能（学校支援活動、家庭教育支援活動、地域活動）の強化を図るとともに、支援する。
- ・七ヶ浜町地域学校協働本部の運営支援  
年3回（夏・冬・春）、町内全小中学校に協働教育だよりの配付と学校支援活動に関するニーズ調査を行い、情報提供の充実を図る。



特色ある活動事例

・登下校の安全見守りボランティア「見守り隊」は、震災以降、復興工事などで交通量の多くなった通学路を歩く子供たちの安全を確保するため、平成25年10月から松ヶ浜小学校に「はまかぜ見守り隊」として発足しました。その後、平成26年には亦楽小学校、平成27年には汐見小学校で「見守り隊」が発足し、町内すべての小学校で立ち上がりました。登下校だけではなく、校外学習や防災学習時にも活動いただいております。今年度は、101名の方に見守り隊への登録をいただいております。



下校の様子を見守る「見守り隊」

・総合的な学習の時間において「乾海苔工場」を見学しました。工場は、震災後の復旧整備事業・海苔共同加工施設として建てられた施設です。この学習は、七ヶ浜町の特産品である「海苔」を通して、地域が育んできた文化や先人たちの知恵・苦勞を知り、町に愛着を感じるとともに、海苔をはじめとする水産業に興味・関心を高めることをねらいとしています。子供たちは試食したり、お土産に海苔をいただいたり大喜び。また、協力いただいたボランティアからは「将来、この中で何人かでも水産業に携わる子供がいたらうれしい」とお話しくださいました。



乾海苔工場にて説明をいただきました

活動の成果

- ・学校支援活動について、平成29年度、町内の児童228名にアンケート調査を行った結果、登下校の安全見守りや読み聞かせ活動、田植え・稲刈りの体験学習や調理実習・裁縫授業時の補助等に対して、96%以上の児童が「よかった」と肯定的な回答を得ている。
- ・家庭教育支援活動について、平成29年度、町家庭教育支援チームによる家庭教育セミナーに全6回、88名の子育て中の保護者が参加し、96%が「よかった」と肯定的な回答をしている。
- ・協力いただいたボランティアからは「楽しかった」や「子供たちへの活動がよい機会となっている」などの声が多数寄せられている。

今後の活動に向けて

- ・今後、更なる活動の活性化に向け、積極的に広報活動やニーズ調査を実施していきたい。それに伴い必然的に必要になってくるボランティアの人材確保に努めたい。そのため、平成31年度からは新たな地域コーディネーターを1名加え、3名体制で様々な活動の要望に備えていきたい。
- ・災害公営住宅の住民など、被災した方の心の問題において、どちらかという閉ざされてしまった方のほうが多く見受けられる。本活動を通じて、生きがいや自己有用感を感じるとともに、高齢化による人材不足の解消を図っていきたい。

# これから着手する予定

市町村名		推進組織名			関係学校名						
利府町		—			—						
		設立年度	教育委員会・担当課		関係学校学級数	児童生徒数					
		—	利府町教育委員会生涯学習課		—	—					
統括的な地域学校協働活動推進員数	統括的なコーディネーター数	地域学校協働活動推進員数	コーディネーター数	地域連携担当数	登録ボランティア数						
0人	0人	0人	4人	0人	55人						
活動目標	—										
【連絡先】		所在地			電話番号	FAX番号					
		〒980-8423 宮城郡利府町中央二丁目25-11			022-767-2125	022-767-2385					
協力企業・団体・大学・NPO等				E-mail	svougai@rifu-cho.com						
—				URL	http://www.town.rifu.miyagi.jp						
利府町の概要											
人口	36,168人	割合	65歳以上	15.6%	面積	44.89km <sup>2</sup>	学校数	幼・保・こ	13園	産業等	農業、林業、水産業、製造業、建設業、加工業、小売業、観光等
			15～64歳	64.0%				小学校	6校		
			0～14歳	20.4%				中学校	3校		

## これまでの経過

- 【土曜日の子どもの居場所づくり事業（りふ・わくわく広場）】コーディネーター数3名
  - ・町内の全児童を対象（事前登録制）に平成18年度から実施している。
  - ・子どもの自主的な「自由あそび」が主な活動内容となるが、様々な体験を通して異世代交流がスムーズにできるよう、活動コーディネーターや活動サポーターをはじめ、町内で活動しているサークルの人などが講師となり、ワークショップ等体験型企画を行っている。
- 【放課後子ども教室推進事業（Sun Pear Class）】コーディネーター数1名
  - ・利府第三小学校の全児童を対象（事前登録制）に平成28年度から実施している。
  - ・子どもの学習やスポーツ・文化活動、異学年・異世代との交流などが主な活動内容となるが、様々な体験を通して異世代交流がスムーズにできるよう、活動コーディネーターや活動サポーターをはじめ、町内で活動しているサークルの人などが講師となり、ワークショップ等体験型企画も行っている。
- 【家庭教育学級（家庭教育支援チーム『とふ十符』）】
  - ・町内の保護者や、次世代の親となる世代が安心して家庭教育を行うことができるよう、子育てサポーターを中心とした「家庭教育支援チーム『とふ十符』」を結成し、多くの親に、楽しく安心して子育てをしてもらう活動を平成28年度から開始している。
  - ・町内小学校や保育所等で開催される就学時健診に出向き、保護者に対し、小学校入学という環境が大きく変化する時期に向けて、「早寝早起き朝ごはん」をテーマに、生活習慣を整えるコツや重要性を伝えるとともに、子育てにおける様々な不安について解消方法のアドバイスを行っている。

## 地域学校協働活動

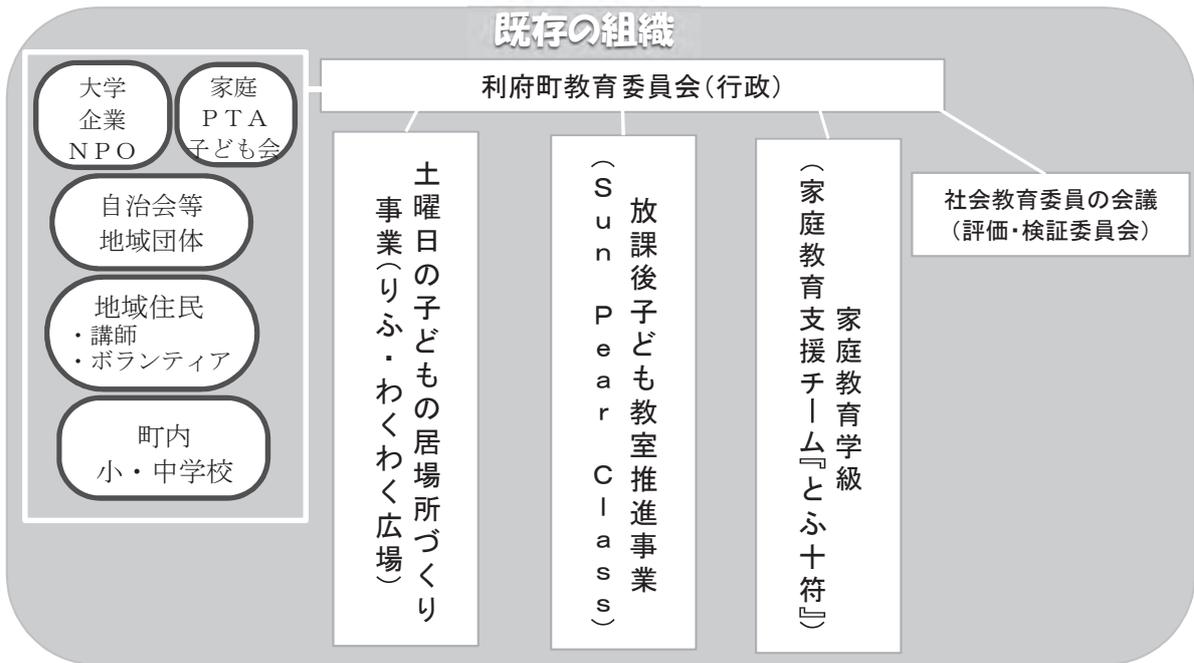
●学校支援活動	●家庭教育支援活動	●地域活動	●放課後子ども教室
安全見守り、地域理解、自然体験、世代間交流、あいさつ運動、その他	子育てサロン、家庭教育講座、家庭教育支援チームによる託児支援、幼・小・中における「親の学びのプログラム」	—	学習、スポーツ・文化活動、異学年・異世代との交流等

## 工夫している点

- ・活動サポーター等の募集はチラシだけでなく、広報誌や学校を經由して保護者等に呼び掛け、現場にマッチした地域人材の確保に努めている。

## 行政の支援や取組

- ・各事業の協力員への委嘱と社会教育主事の助言
  - 各事業の協力員を委嘱し、責任を明確化して連絡・調整機能の強化を図るとともに、行政側（社会教育主事）が企画・運営に関し助言できる体制を整えている。



特色ある活動事例

【土曜日の子どもの居場所づくり事業】  
(りふ・わくわく広場)



自由遊びのルール説明



牛乳パック飛行機作り

【放課後子ども教室推進事業】  
(Sun Pear Class)



コーディネーターによる読み聞かせ



ギターの演奏を聴こう！

【家庭教育学級】  
(家庭教育支援チーム『とふ十符』)



保護者と児童への啓発



資料作成と打ち合わせ

活動の成果

【土曜日の子どもの居場所づくり事業】(りふ・わくわく広場)

・平成29年度には、コーディネーター3名、活動サポーター42名(内大学生14名)と16回開催し、延べ173人の児童が参加し、子どもたちが自ら考え、活動できる空間を確保し、地域の特色(人、風土)を生かした「居場所づくり」を実施した。

・サポーター同士の交流が促進され、生きがいつくりにつながっているという声が多数寄せられた。

【放課後子ども教室推進事業】(Sun Pear Class)

・平成29年度には、コーディネーター1名、教育活動サポーター2名、安全管理員5名と25回開催し、延べ801人の児童が参加し、「予習・復習・宿題」等の自主学習の場を主体としつつ、自由遊びなど主体的な活動と、地域の特色(人、風土)を生かした「放課後子ども教室」を実施した。

【家庭教育学級】(家庭教育支援チーム『とふ十符』)

・平成29年度には、スタッフ合計6名(代表1名、サポーター5名)で、講座メニュー(幼保・小学校・中学校)の企画・作成・リハーサルや、出前講座の実施を行った。

今後の活動に向けて

・高齢化が進み、支援する人材不足が一つの課題となっている。今後は、学校のニーズと地域のシーズのマッチングをより効果的に進めるためのネットワークづくりを行うシステムづくりが必要と考えている。